目次

凡例

序章　自由への垂鉛 …… 1
——戦後天皇制論の遺産——

I　丸山眞男　一九一四—一九九六

第一章　日本政治思想史講義における「戦中と戦後の間」 …… 41
『丸山眞男講義録　第一冊　日本政治思想史　一九四八』解題

第二章　ナショナリズム論における「戦中と戦後の間」 …… 75
『丸山眞男講義録　第二冊　日本政治思想史　一九四九』解題

第三章　リベラリズムをめぐる回想と思索 …… 107
松沢弘陽・植手通有編『丸山眞男回顧談』書評

附録1　ある情景 …… 137

Ⅱ　藤田省三　一九二七―二〇〇三

第四章　天皇制権力への内在の試み……145
『藤田省三著作集1　天皇制国家の支配原理』解題

第五章　普遍主義的精神の系譜……173
『藤田省三著作集4　維新の精神』解題

第六章　天皇制における正統と異端……183
『藤田省三著作集10　異端論断章』解題

第七章　「自由考（オン・リバティー）」の軌跡……201
『藤田省三対話集成3』解説

附録2　お別れの言葉――思想史研究の三準則……221

Ⅲ　萩原延壽　一九二六―二〇〇一

第八章　「革新（ラディカル）」への問いと「自由の精神」……227
萩原延壽『自由の精神』解説

第九章　或る「性急な歩行者」との出会い……『萩原延壽集1　馬場辰猪』解説　245
第一〇章　権力の論理と思想の論理との相剋……『萩原延壽集2・3　陸奥宗光』解説　263
終章　テクストの歴史性と可能性……萩原延壽・藤田省三『癈我慢の精神』解説　289
あとがき　325
初出一覧　333